

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：ちとせ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：通木 光男	定員（利用人数）：189名	
所在地：〒241-0033 横浜市旭区今川町60-2		
TEL：045-364-6332	ホームページ：http://chitosekai.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1979年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ちとせ会		
職員数	常勤職員：25名 非常勤職員：18名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：37名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：調乳室
	居室：2歳児室	設備：ほふく室
	居室：3歳児室	設備：遊戯室
	居室：4歳児室	設備：トイレ
	居室：5歳児室	設備：事務室兼医務室
		設備：職員室
		設備：園庭
	設備：遊技場	
	設備：プール	

③理念・基本方針

<理念>

キリスト教精神に基づき、人間は存在そのもの・生きていることに価値がある聖句を理念とし、おさなごに“愛と希望と勇気”を与え、一人ひとりのより豊かな可能性を探求しながら、その保護者の社会参画を支え、隣人愛の社会的実践の場として、地域社会に関わり、“共に成長していく”ことを目的としています。

<保育方針>

キリスト教の“愛”の精神に基づき、「保育所保育指針」に沿って、「ありのままの自分が受け入れられている」、「生かされている」という自覚をもって生きることを大切にされた保育を行います。

互いに愛し合う生き方を培い、一人ひとりに与えられた力を社会で他者に役立て、他者と共に生きる人間形成を目指します。

<保育目標>

- 他者を思いやる、やさしさ。
- すべてのことに感謝する。
- 互いの違いを大切に、それぞれに与えられている能力や考えの多様性を認め合う。
- 無限の可能性を信じ、さまざまなことに積極的にチャレンジする。
- 夢を持ち、最後まであきらめないうで努力し、忍耐する、たくましさ。
- 平和をつくりだす。

④施設・事業所の特徴的な取組

<ちとせ保育園の特徴的な取り組み>

1. はだし保育を年間通して取り組んでいます。
2. 画一的保育から脱却するために専門家の研修及びアドバイスの取り入れをしています。
3. 子どもの人権について専門家のアドバイスにより理解し保育の実践につなげる取り組みをしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年07月19日（契約日） ～ 2023年03月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

【ちとせ保育園の概要】

●ちとせ保育園は、社会福祉法人ちとせ会（以下、法人という）が運営している保育園です。法人は、昭和54年2月に設立された、歴史ある法人です。創立者はキリスト教の聖職者であり、すぐれた福祉と幼児教育を実践していくことが自らの使命であると考え、同年4月、「ちとせ保育園」を開園しました。法人はキリスト教の精神を基本としていますが、宗教色を前面に顕示しておらず、広く一般の保護者・児童の受け入れを行っています。24年経過した平成15年、横浜市が「市立保育所の民間移管」を進めていくことを機に、民間移管が決定した横浜市立鶴ヶ峰保育園を平成16年に法人が請負、第2保育園となる鶴ヶ峰保育園としています。これ以降、法人は、2園体制で保育園経営に尽力しています。

●ちとせ保育園の設立時は、定員90名でスタートし、翌年に定員を100名とし、昭和59年には定員が115名となり、平成11年に200名へと増員が成され、同時に園舎の増築を行っています。保育方針に「他者と共に生きる人間形成を目指します」とし、異年齢での交流が活発に行われています。また、ちとせ保育園は、園庭が充実（令和1年に拡張）しており、乳児用、幼児用と使い分けができているため、それぞれの環境で活発に活動できています。園庭には様々な樹木が植栽され、季節の移り変わりを感じながら自然に親しんでいます。園では、「はだし」保育を実施し、子どもたちは園庭を駆け巡りのびのびと園生活を楽しんでいます。

●ちとせ保育園は、相鉄本線鶴ヶ峰駅から閑静な住宅街を抜け、高台の一角の開けた土地に位置しています。車を利用する家庭が多いため保護者駐車場、職員駐車場を確保してニーズにえています。園舎1Fは4歳児～5歳児の保育室及び調理室、医務室を設け、2Fは0歳児～3歳児の保育室、ホールが設備されています。廊下、保育室は広く、天井も高く、また採光がとても良く入り、園舎内は明るく、一人ひとりの空間も十分余裕があり、子どもたち、職員がゆったりと快適に過ごせる環境が

整備されています。住宅街において、近隣の方々との関係は良好であり、夏祭り等の行事にも参加しています。これらの恩恵を生かし、子どもたちに豊かな園生活を提供し、様々な体験を糧に、自信と行動・意欲を育み、保育目標に沿った保育を実践しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【一貫した事業計画の展開】

ちとせ保育園では、今後の出生数減少と多様化する保育ニーズに応えるべく、個人を尊重した個別的な保育に取り組み、そうした特性の認知に向けて啓蒙活動に努めています。また、理念に立ち返った保育の見直し、「期待される職員像」の見直しを含め、これらを事業計画に盛り込み、事業計画と連動することで一貫した展開を図っています。職員の個人目標についても、上長との面談で共有を図り、目標を達成できる内容の検討を行っています。中・長期計画は、年・月のカリキュラムに展開し、職員一人ひとりの目標達成と、事業計画の達成を有機的に図り、詳細に向けた運営に大きな成果をもたらしています。

2. 【働きやすい職場環境】

法人では、人材定着のため労働環境、職場環境の改善に取り組んでいます。職員の生活状況に合わせたシフトを導入し、残業等の業務軽減のため書類軽減の推進を図り、事務効率の向上と、保育業務時間の確保に力を入れています。明るく働きやすい職場環境作りのため、有給休暇の取得促進、福利厚生充実、実習生の受け入れによる後進育成をすることで職場の活性化に努め、さらなる働きやすい職場環境作りの推進に期待が寄せられます。

3. 【ICT化の早期推進】

ICT化のさらなる推進は重要ですが、全てがICT化では中々省力化は進みません。手書きの良さも大事にしたい意向を汲みながら、効果的に進める必要があります。例えば、保護者への周知、案内に関する問題では、先ず、知らせた足跡を残すことが重要であり、「聞いていない、知らない」がないことが大切であり、ICT化により改善も期待できます。また、職員の書類作成についても業務量の軽減化に寄与することが考えられます。半面、ICT化を推進するに当たり、設備面の費用加算は懸念されますが、計画的かつ効果的に補助金を活用することも一考です。ICT化による業務の上積みは否めなく、より業務が増えたというケースも多く聞き及ぶこともあり、効果的な活用を期待いたします。

4. 【アフターコロナの体制作り】

アフターコロナ（新型コロナウイルス感染症が流行（以下、コロナ禍という）した後の社会の在り方）については、感染症の存在を前提とした生活を今後も継続していかなくてはならないことが考えられます。園生活、行事、プログラム等、再構築するには、初めにアプローチした以上に手間がかかることが考えられます。園でも現状を踏まえた再アプローチを考え、新しいプログラム等を策定し、体制の活性を図っていかれることを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人ちとせ会 ちとせ保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

当園は、開園以来、地域のニーズに応えようと高度経済期の日本企業のようにトップダウン方式のピラミッド型組織で保育の量を増やし、均一化した保育の提供に邁進してきました。

ところが、多様性を重んじた、子どもを中心にした保育が求められる昨今、一人ひとりの子どもの主体性を尊重した保育実践には、保育者一人ひとりが子どもの心もちを丁寧にくみ取り、今の子どもの姿から保育を組み立てる必要が生じています。そこでは、全ての組織構成員が意欲的に組織運営に参画し、自らの自律性・自発性を前提としたフラットな組織態が必要ではないかと感じていました。

この度の第三者評価の受審を通して、組織の末端は指示待ちでよいのではなく、現場の判断がより重要であるという職員の意識改革を促すことができたのではないかと感じています。

利用者の保護者アンケートの集計及び分析結果を真摯に受け止め、当法人の創立の精神に基づき、子どもたちがありのままの自分を受け容れ、「この世は生きるに値する素晴らしいところなんだ」と思うような、自信や希望や勇気を与えることができるよう、そして保護者の皆さまの社会参画と子育て支援の一翼を担うことができるよう、また職員がこの仕事に喜びと誇りを持つことができるような保育園づくりに努めていく所存です。

アンケートにご協力いただきました保護者の皆さま、また第三者評価を達成するためにご協力いただきました関係機関の皆さまに、心より感謝申し上げます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 意欲のある職員の成長を促すための人事管理制度の見直しを開始。
2. 業務マニュアルの改善

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり